

授業科目名・形態	地域福祉論Ⅱ	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	白男川尚・脇山園恵	開講期	3年前期	単位数 2

【授業の主題】

2000年の社会福祉法改正から地域福祉へと大きく転換するなかで、地域福祉の理論・政策・実践・技術を体系的に学んでいく。具体的には、地域福祉におけるネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、地域包括ケアシステム、サービスの評価方法等について、各地の地域福祉計画の推進方法や各地のコミュニティ資源を生かした福祉実践事例を取り入れながら学習する。

【到達目標】

- 1) 地域福祉における他職種・多機関連携の意義と方法について理解する。
- 2) 地域福祉の実際及び推進方法について理解する。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 社会福祉法の改正と地域福祉
- 第 2 回 コミュニティソーシャルワークの考え方と展開
- 第 3 回 専門他職種のチームアプローチとコミュニティソーシャルワーク
- 第 4 回 専門職（コミュニティソーシャルワーカー）と地域住民の関係
- 第 5 回 ソーシャルサポートネットワークの考え方
- 第 6 回 地域における社会資源の活用と開発
- 第 7 回 地域における社会資源の活用（税制優遇と助成金）
- 第 8 回 地域におけるアウトリーチの意義
- 第 9 回 地域における福祉ニーズの把握方法（質的、量的な福祉ニーズ）
- 第 10 回 地域トータルケアシステムの必要性と考え方
- 第 11 回 地域トータルケアシステムの展開方法
- 第 12 回 福祉サービスの評価の背景と評価の考え方
- 第 13 回 福祉サービスの評価方法と実際
- 第 14 回 災害支援と地域福祉
- 第 15 回 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方（イギリスとアメリカ）

【授業実施方法】 基本的には講義形式で行う。グループワークによる発表を行う。

【授業準備】 2年生において学んだ地域福祉論Ⅰを復習するとともに、講義中に指摘する問題について新聞や参考書を用いて確認すること。

【主な関連する科目】 「公的扶助論」「権利擁護と成年後見」「社会福祉概論Ⅱ」「高齢者福祉論Ⅰ・Ⅱ」

【教科書等】 社会福祉士養成講座編集委員会編「地域福祉の理論と方法第3版」中央法規出版

【参考文献】 必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】 平常点 10%、レポート 20%、期末試験 70%により評価する。60%以上の得点を合格とする。

【学生へのメッセージ】

地域福祉活動は生活の場での実践ですので各科目に共通した部分が多くあります。身近な地域の福祉問題を意識しながら授業に臨んでください。